

平成22年度 部誌・OB&OG 会報

— 現役と OB&OG の情報誌（架け橋） —



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

No. 37

HP アドレス : <http://www.nda.ac.jp/ed/syorinji/>

目 次

- 1 部長挨拶
通信工学科 教授 高橋 信明
- 2 監督挨拶
1 1 3小隊指導教官 2等陸尉 寺田 浩昌
- 3 学生寄稿
5 6期 主将 佐藤 康平
副将 北村 修
5 7期 重松 翼
藤本 宗一郎
5 8期 古市 英人
片岡 俊理
- 4 平成23年度部員名簿
- 5 平成22年度活動成果
- 6 平成22年度各大会個人成績
- 7 平成23年度年間活動計画
- 8 少林寺拳法部第56期政権編成
- 9 少林寺拳法部顧問団等

奥平会報

- 1 巻頭言
奥平会会長 17期 石渡 幹生
- 2 平成22年奥平会活動概要
- 3 平成23年度奥平会活動予定
- 4 期連絡網について
- 5 連絡事項
- 6 奥平会会員名簿
別紙第1 平成22年度奥平会活動成果報告
別紙第2 平成22年度奥平会総会議事録
別紙第3 平成22年度奥平会決算報告書
別紙第4 平成23年度奥平会活動計画
別紙第5 平成23年度奥平会予算計画
別紙第6 奥平会名誉会員名簿
別紙第7 防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則
別紙第8 全自衛隊支部の紹介
別 冊 奥平会員名簿

ご挨拶

部長 高橋 信明

合掌

2011年3月11日に太平洋三陸沖で発生しました東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う東日本大震災は日本国に未曾有の災害を齎しました。百年に、あるいは千年に一度と言われるような史上有数の大災害は、震災そのものも我々の想像を絶するものでありますが、これにより引き起こされた原子力発電所のトラブルが困難を幾倍にも増幅しています。まさにこれは国難であり、この混乱を克服することなしには日本の未来はないと言える状況です。防衛大学校少林寺拳法部OB・OG諸兄弟におかれましては、このような厳しい状況の下、多大なる困難にもめげず日夜ご精励のことと思います。ここに敬意を表するとともに、日本国の復興のためにご活躍されんことを祈念致します。

さて防衛大学校少林寺拳法部では55期から56期（佐藤主将、北村副将）へ政権が委譲され、今年こそ防大少林寺の面目を立たせるべく稽古に勤しんできたのですが、震災の影響を考慮して5月4日に日本武道館で予定されておりました第48回少林寺拳法関東学生大会の開催は見送られることになりました。中止ではなく延期とし、秋において関東地方のどこかの大学等の体育館での開催を模索しているところです。どんな状況でも、いかなる困難な条件下でも志気を下げずに取り組むのが防大生ですので、当座の目標はなくなりましたが、現役諸君は変わる事無く日々全力で稽古に励んでいるところです。本年は新入部員（59期）が15名入りしましたので、4年（56期、13名）、3年（57期、13名）、2年（58期、13名）と併せて総員54名の体制でスタートすることになりました。大いなる活躍を期待したいと思います。

最後に、神田・頼富両先生の熱心なご指導の下、政権を始め現役部員一同先輩に負けじと、粉骨砕身の稽古をしておりますので、OB・OG諸兄弟におかれましては、これまで以上のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結手

監督就任にあたりご挨拶

1 1 3 小隊指導教官 2 等陸尉 寺田 浩昌 (#51)

合掌 この度防衛大学校少林寺拳法部監督を拝命いたしました寺田と申します。

東日本大震災で被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福と被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。また、陸海空自衛隊の中核として復旧・復興のため日夜活動しておられる我が部OBの方々に敬意と感謝を申し上げます。

私は、平成22年8月に防衛大学校訓練部指導教官に着任以来、顧問として在籍しておりました。防衛大学校は創立60周年を来年に控え、さらに有為な人材を陸海空自衛隊に送り出すべく大規模な改革を検討中であり、指導教官として服務指導及び訓練指導について微力ながら業務遂行してまいりましたが、反面、日々の練習や部務については「幽霊顧問」と化しつつある状況でした。しかしながら、監督就任という、校友会指導についても積極的に関わらせていただく契機を与えていただき、感謝しますとともに、部長をはじめとする顧問・OBの諸先輩方が築き上げてきた伝統ある我が部に対する責任感をより一層感じているところです。

さて、我が部の状況は、最上級生となった第56期生を核心に54名の部員を抱え、日夜練習により技を磨くとともに、少林寺拳法の目的である「人づくり」を重視して人格の陶冶に努めております。40期代の部員減少に歯止めがかかり、防衛大学校内の校友会のうちでも比較的多い人数を確保することができていますが、直接指導にあたるOBたる顧問となる研究科学生や指導教官がちょうど部員減少期に相当することから、指導部が手薄となる事態に直面しているのが実情です。特に全盛期に比して主要大会における成績低迷は明らかであり、技術面での指導不十分は否定できません。OB諸先輩方におかれましては、この状況をご理解いただき、引き続き我が部に対するご指導・ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。 結手

監督を下番致します

前監督 2 等陸佐 濱田 秀 (#27)

合掌 東日本大震災で被災された多くの方々に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福と、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。この度、顧問業務継承、監督活動のさらなる実効化・若返りを図るため、少林寺拳法部監督を下番いたしました。なお、しばらく防大には所在する予定です。

平成20年度を拝命以来、3年あまりが経ちました。この間、防大を巣立った#53 磯畑主将以下16名、#54 坂口主将以下9名、#55 尾上主将以下13名、それぞれ1人1人の懐かしい顔と成長した姿が目に見え、まさに監督冥利に尽きる日々でした。現在は佐藤主将以下54名（内女子5名）、日々汗を流しております。防大に所在する限り、これまで同様、彼等をサポートしてゆきたいと思っております。 結手



防大少林寺拳法部が飛躍するとき

第56期 主将 佐藤 康平

合掌

我が少林寺拳法部の政権が55期から56期に移行してからもう半年弱になります。この約半年間政権を中心にいかにしてこの部を発展させられるかを考えてやってまいりましたが、まだまだ思考中であります。

ところで、今年の4月から少林寺拳法グループ機構の改革ということで様々な変化がありました。これまでの一つ一つの申請業務等が簡略化され、政権としては非常に運営が行いやすくなりましたがその分各部員にかかる負担が若干多くなりました。しかし「全員で」という56期の方針を鑑みれば、個人個人が自分を管理することによって少林寺拳法の第一義的な「人間作り」に直結するのではないのでしょうか。56期政権としてはこの機構改革を積極的に受け止めて政権運営に努めたいと思っております。

また、3月11日に発生しました東日本大震災の影響もあり5月4日に開催される予定だった関東学生大会が中止もしくは延期となりました。我が部としてはこの大会で日々の練習の成果を発揮し、その結果を受けて最大の目標である全日本学生大会の糧とするはずでしたが今回はできません。しかし、こんなときこそ基本に立ち返ることのできる機会であると考えております。大会が近づくとどうしても演武に偏った練習になってしまうため基本が疎かになってしまいがちです。今年は大会までの間隔が長くなったためより基本を徹底していく所存であります。どんな立派な建物もしっかりとした土台がなければ簡単に崩れてしまいます。武道において基本とはまさにその土台作りであり、基本をやり続けることは非常に精神的にも肉体的にも困難ではありますが、必ず基本をやってきてよかったと思える日が来るはずで。

これらを踏まえて今年は傍から見れば試練の年であると見ることもできますが、視点を変えて見るとさらに我が部が大きく飛躍できる年ではないかとも見て取れます。これは政権だけでなく部全体のものであると考えます。そのため、部員全員にこの変化を自覚させる必要があります、変化をより具体的に示せるかが政権のすべきところです。

最後になりましたが今年は予測不可能なことが多いため何かと政権だけでは解決できないことが多々あると思います。部長、先生、監督、顧問、OB及びOGの方々には頼りになることがあると思いますがその際にご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

結手



防大少林寺拳法に入部して

第56期 副将 北村 修

合掌 「団体演武の部 第三位 防衛大学校」。11月7日このアナウンスが日本武道館に流れました。大会後、周りも気にせず56期全員で大泣きしたあの日から実に半年の月日が流れようとしています。その日から私たち56期政権が始まりました。

1学年時、私は「武道をやりたい、強い男になりたい」という思いでいました。そんなとき当時主将であった53期の磯畑さんに勧誘を受けたことが私の少林寺拳法部に入部しようとしたきっかけでした。そのときに少林寺拳法は一般的な突き蹴りはもちろんのこと、投げ技や固め技まであり色んな武道の良いところを持ってきたようなものと聞かされ私は入部を決意しました。武道に全く縁がなかったため最初は突き蹴りが思うようにできず、また柔法はさらに難しく、自分には向いていないと本気であきらめようと思う時もありました。しかし練習を頑張っている56期のみんなを見て自分だけあきらめることはできないという思いになり、また政権等の上級生の熱心な指導のおかげでその後の練習を一生懸命取り組むことができました。

現在私は、副将という立場で部に在籍して3年係として57期と共に稽古をしています。政権をとった当初は本当に下級生に教えることの難しさを感じる毎日でした。自分の言いたいことを上手く伝えることができなかつたり、自分の少林寺拳法の知識や技術が足りず教えたくても教えることができず歯がゆい思いをすることも何度もありました。

しかし現在はそれ以上に57期が日々上達していくことに非常に喜びを感じています。最初に比べ57期は言われてから行動を起こすという受け身的な練習から自分たちで練習前に技の研究をしていたり、鏡に向かい必死に突き蹴りをやったりと積極的な練習の姿勢をみせるようになってきました。

副将の役目は、主将をしっかり支え、部を引っ張っていき発展させることです。また3年係の役目は57期に大会で1位をとるように導いてやること、つまり精神的にも肉体的にも技術的にも56期を超える存在にすることであると思っています。防衛大学校少林寺拳法部には基本的な突き蹴り、または投げなど自分を強くしてくれたということ、私につらい時に助けてくれる同期、または上級生下級生などかけがえのない存在を与えてくれたり、さらに他人色んな事を教えることの楽しさや難しさを教えてもらったりと様々な面において本当にお世話になりました。これから私は56期の方針である「全員で」をもとに、部員全員が同じベクトルを向き、大会では団体演武で1位になることはもちろんのこと、「第一位 防衛大学校」の名前が一つでも多くの種目で響き渡るように指導し、また己も練習に励み、防衛大学校少林寺拳法部に恩返しができるよう頑張っていきたいと思います。

結手

防大少林寺拳法との出会い

第57期 重松 翼

合掌

私が少林寺拳法部に入ったきっかけは、まぎれもなく当時の54期の方々の影響と言えます。それまで、少林寺拳法という武道の存在さえ知りませんでした。24中隊に配属となり、部屋長が少林寺拳法部であり、ブロック部屋の部屋長までも少林寺拳法部であった私にとって入部はもはや運命でした。しかし、防大少林寺拳法部に入って後悔したことはありません。なぜなら、部活での出会いは私にとっての財産であり、かけがえのないものとなっているからです。今年、3学年として団演に参加し、同期との団結を深め全日本優勝へ向け日々努力しています。全日本における団演で勝つことは入部当初からの夢でした。そのためにも後悔の残らないようこれからも頑張ります。そして、私たちに少林寺拳法の技術にとどまらず、人として多くのことを教えて下さった先輩方に感謝したいと思います。

結手

私と少林寺拳法

第57期 藤本 宗一郎

合掌

私がこの校友会に入部したきっかけは、入部届けの提出期限前日までに入りたいものが見つからず、休日があるからという本当につまらない理由でした。そんな理由から始めた少林寺に熱が入るわけがなく、ただただ練習をこなすだけの作業になっていました。しかし、ブラウンシーズンをきっかけに同期と一緒に熱くなり、キツイことも楽しめるということを知ってから、毎日の練習が楽しくなりました。また、私が2学年時の全日本学生大会後の打ち上げの席で、当時の副将が3学年に対して「お前たちに最優秀をあげられんでゴメンな」と、泣きながら言っている姿を見て、自分がこの場にいるのが場違いなのではないかと思わせるほど心を打たれて、私自身も必死に涙を堪えていたことを今でも鮮明に覚えています。それは私に「自分は無力だ」と思わせると同時に「次は57期だ」と決意させました。入部した時から比べると、今の私は変わったと胸を張って言えます。しかしまだまだ努力が足りません。今の私の夢は全日本学生大会の打ち上げの席で嬉し涙を流すことです。そんな夢をくれた少林寺は私の防大生活においてかけがえのない大切なものとなりました。

結手

防大少林寺拳法に入部して

58期 古市 英人

合掌

私が少林寺拳法部に入ったのは、単に武道がやってみたかったという単純な理由でした。少林寺拳法部に入って、ランニングやシーズンの練習などいろいろと辛いこともたくさんありました。しかし、少しずつ何かができるようになることがうれしくて、少林寺拳法部を続けています。そして、全日本学生大会段外の部で出場させていただきました。しかし、入賞できず本戦出場で終わってしまいました。とても悔しい思いもしましたが、はじめての大会と言うことでよい経験ができたと思います。次の大会では最優秀賞目指して頑張っていきたいと思います。これからの練習でも辛いことがたくさんあると思いますが、少林寺拳法をやっていてうれしいこと楽しいことを自分のモチベーションにして頑張っていきたいと思います。

結手

少林寺拳法との出会い

第58期 片岡 俊理

合掌

私が防衛大学校の少林寺拳法部に入ったきっかけは、少林寺拳法部の裏対番の二人と同部屋の57期の方の影響を受けたからでした。私はゴールデンウィークが終わり、部活動が本格的に始まり、最初の3日間で他の部よりきつい部に入ったことを実感しました。平日は練習が始まると、体操やストレッチをした後にランニングを20分くらいして、技の練習をするのですが、その時にはすでにくたくたになってしまうという状態でした。そんな私がなぜ今でもこの少林寺拳法を続けているのか。それは、少林寺拳法をすることが好きだからです。今までの厳しい練習の中で、度々辞めたいと思ったことはありましたが、日々の練習で技が上手になると素直に嬉しくなります。1学年の初期の頃と比べるとかなり上手になってきていると思います。しかし、私はより高みを目指しているので今の練度では決して満足しません。なので、これからも防衛大学校の少林寺拳法部で同期と共に刺激し合いながら頑張っていきたいと思います。

結手

平成 2 3 年度部員名簿

(平成 2 3 年 5 月 1 日現在)

期別	小隊	教務班	要員	フリガナ 氏 名	役職等
56	111	航空(13)	陸	ニシダ ヒロシ 西田 浩 士	2 年係副
	131	航空(13)	空	ニフ カズミ 丹羽 和 美 W	庶務 1 年係補
	141	機シス(12)	陸	キタムラ オサム 北村 修	副将 3 年係補
	141	機シス(12)	海	ウエノ シマサ 上野 嘉 優	主務 2 年係補
	141	航空(13)	空	キガハ シノブ 岸上 吉 孝	道場長 1 年係副 乱捕
	142	航空(13)	空	ナリ ヨウスケ 南里 陽 介	2 年係正
	22	建設(14)	陸	ホック・ウィチエツ トラー	1 年係補
	311	電気(7)	海	スズキ ダイショウ 鈴木 大 翔	統制長 渉外 3 年係正
	311	電気(7)	陸	ドン・トック・トア ン	3 年係副 乱捕
	312	電気(7)	陸	セキカワ タツヤ 関川 達 弥	庶務 3 年係補
	332	応化(5)	陸	セキド カンショウ 関戸 貫 生	1 年係正
	422	公共(3)	陸	サウ コウヘイ 佐藤 康 平	主将
432	応物(4)	陸	ウチキ シュウヘイ 内木 修 平	会計 2 年係補	
57	111	航空(13)	陸	アリムラ マサキ 有村 匡 城	
	131	航空(13)	空	リュウ シンノスケ 笠 慎 之 介	
	141	機シス(12)	海	エンドウ マコト 遠藤 真 琴 W	

57	141	航空(13)	空	モリシ 盛満	アキヒコ 昭彦	
	212	応物(4)	陸	タケムラ 竹村	シゲト 滋人	
	322	地球(6)	海	ナカガワ 中川	エリカ 絵莉夏	W
	331	機械(11)	空	スノウチ 則内	リュウタロウ 龍太郎	
	411	通信(8)	陸	コウ 後藤	カズマサ 和正	
	411	通信(8)	陸	シゲマツ 重松	ツバサ 翼	
	411	人間(1)	空	マンザキ 松崎	リュウイチ 諒一	
	423	機械(11)	陸	タナカ 田中	ショウタ 翔太	
	441	電気(7)	陸	アサウ 朝鶉	ユウタ 悠太	
	442	電気(7)	海	フジモト 藤本	ソウイチロウ 宗一郎	
58	112	応化(5)	海	ヒグチ 樋口	トシヒコ 敏彦	
	212	人間(1)	陸	クリバヤシ 栗林	マサキ 正樹	
	212	通信(8)	海	タモト 田本	アヤカ 綾香	W
	212	電気(7)	空	マエダ 前田	ヨウセイ 陽成	
	221	通信(8)	海	ナカヤ 仲矢	コウキ 光希	
	222	電気(7)	陸	ナグモ 南雲	ユウキ 祐樹	

58	241	電気(7)	陸	ナカノ 中野	カツキ 勝喜	
	312	公共(3)	陸	ウノ 宇野	ユウキ 裕喜	
	411	機械(11)	空	ニシヤマ 西山	タカユキ 貴幸	
	412	情報(9)	陸	カタカ 片岡	トシノリ 俊理	
	412	情報(9)	空	フルイチ 古市	エイヒト 英人	
	412	情報(9)	海	モリタ 森下	のりひろ 紀洋	
	432	建設(14)	陸	ミヤギ 宮城	ミツヒロ 充宏	
59	113	理工(11)	共通	ヤマダ 山田	マサツグ 正嗣	
	133	理工(13)	共通	ナカヤマ 中山	マlina 真利奈	
	143	理工(10)	共通	カワグチ 川口	タカシ 剛史	
	213	人文(1)	共通	ミヤザト 宮里	シン斗 進斗	
	223	理工(14)	共通	キクイ 菊井	ケンタ 健太	
	233	理工(15)	共通	アサイ 浅井	リョウ 晃	
	313	理工(4)	共通	コバヤシ 小林	タカミ海 岳海	
	313	理工(4)	共通	トウ本 戸本	ソウイチロウ 宗一郎	
	413	人文(3)	共通	イグチ 井口	ハジメ 賢	
	413	人文(3)	共通	コノヅメ 小椎尾	ケンゾウ 憲造	
	423	理工(7)	共通	ヤマダ 山田	タツヤ 竜也	
	433	理工(8)	共通	ヒラエ 平江	タケ己 泰己	
	443	理工(9)	共通	モリ森 拓海	タケ己 拓海	
443	理工(9)	共通	ヤマグチ 山口	ヒロシ 滉司		
443	理工(9)	共通	ユウキ 結城	ショウゴ 翔伍		

平成 2 2 年度活動成果

期 間	行 事	場 所	備 考
5 月 4 日	関東学生大会	武道館	団体演武 3 位 男子二段 4 位 男子段外 5 位
5 月 8 日	新入部員歓迎行事	箱根小涌園ユネッ サン	新入部員 20 名入部
6 月 20 日	早稲田大学・慶應義塾大学 との合同練習（早慶防）	防衛大学校	
6 月 27 日	昇段審査	関東学院高校	
8 月 9～13 日	本山合宿	香川県多度津町	3 年生主体に参加
8 月 19～22 日	夏合宿	防衛大学校	
11 月 7 日	全日本学生大会	武道館	団体演武：3 位
11 月 20～21 日	第 5 8 回開校記念祭（演武披露）	防衛大学校	
12 月 5 日	横須賀三浦ブロック大会	県立保健福祉大	有段の部：優秀 段外の部：最優秀 単独有段：最優秀
1 2 月 1 8 日	全自衛隊大会	朝霞駐屯地	団体演武：最優秀 4 段以上：最優秀 3 段：最優秀、他
1 1 月 1 2 日	政権交代	防衛大学校	
1 月 6～8 日	寒稽古	防衛大学校	
2 月 5 日	奥平杯演武大会・納会 OB 総会	防衛大学校	
3 月 20～23 日	春合宿	防衛大学校	

少林寺拳法部 2 2 年度顧問団編成

部 長	通信工学 教授 高橋信朗	顧 問	通信工学 准教授 西田 健
監 督	防衛学 2 陸佐 濱田 秀	顧 問	応用物理 講 師 齋藤文一
副監督	研究科 2 空尉 藤井貫司	顧 問	通信工学 助 教 和田 篤
顧 問	防衛学 教授 加藤三千夫	顧 問	研究科係 事務官 波多野幸子
顧 問	通信工学 教授 宇都宮俊男	顧 問	通信工学 事 務 勝 恵子
顧 問	研究科 2 陸尉 坂東正崇	顧 問	通信工学 事 務 伊藤春代
顧 問	指導官 2 陸尉 寺田浩昌	顧 問	総合情報 事 務 渡辺康子
顧 問	機能材料 准教授 有賀 敦	顧 問	研究科 2 陸尉 永田忠義

平成22年度各大会個人成績

関東学生大会（平成22年5月4日：日本武道館）

団体演武の部	3位	56期	佐藤康平 上野嘉優 岸上吉孝 関川達弥	北村修 関戸貫生 南里陽介 鈴木大翔
男子二段の部	4位	55期	尾上真一	川上政晃
男子段外の部	5位	57期	重松翼	藤本宗一郎
三人掛の部	本戦進出	55期 57期	藤田孝仁 盛満昭彦	植野辰徳
運用法の部	本選進出	55期	植野辰徳	

全日本学生大会（平成22年11月7日：日本武道館）

団体演武の部	3位	56期	佐藤康平 ドン 南里陽介 鈴木大翔	北村修 岸上吉孝 西田浩士 鈴木大翔
		57期	盛満昭彦	
男子三段の部	本選進出	55期	尾上真一	川上政晃
男子二段の部	本選進出	57期	有村匡城	藤本宗一郎
男子初段の部	本選進出	57期	重松翼	竹村滋人
男女初段の部	本選進出	57期	笠慎之介	遠藤真琴
男子段外の部	本選進出	58期	古市英人	森下真史
単独有段の部	本選進出	55期	重松紀	
単独段外の部	本選進出	58期	中野勝喜	

三浦ブロック大会（平成22年12月5日：不入斗体育館）

有段の部	優秀	58期	栗林正樹	仲矢光希
段外の部	最優秀	58期	宇野裕貴	西山貴幸
単独有段の部	最優秀	57期	重松翼	

全自衛隊大会（平成22年12月18日：陸上自衛隊朝霞駐屯地）

団体演武の部	最優秀	56期	上野嘉優 内木脩平 岸上吉孝 西田浩士	関戸貫生 関川達弥 南里陽介 鈴木大翔
四段以上の部	最優秀	57期	盛満昭彦	
三段の部	最優秀	56期	ドン	鈴木大翔
初・二段の部	最優秀	56期	上野嘉優	関戸貫生
	優秀	57期	有村匡城	藤本宗一郎
	優良	57期	笠慎之介	遠藤真琴
段外の部	優良	58期	宇野裕貴	田本綾香
単独初・二段の部	優秀	57期	重松翼	
単独段外の部	最優秀	58期	西山貴幸	

平成 23 年度年間活動計画

期 間	行 事	場 所	備 考
4 月中	全力勧誘期間		目標：40名（15名入部）
5 月 4 日	第 48 回関東学生大会	武道館	東日本大震災により 9 月 25 日に実施
5 月 14 日	新入部員歓迎行事	長井海の手公園 ソレイユの丘	
5 月下旬	高等工科学校との合同練習	防衛大学校	状況により実施
6 月 4 日	早稲田大学・慶應義塾大学 等との合同練習（早慶防）	防衛大学校	例年ベースで検討
6 月 26 日	昇段審査	藤沢翔陵高校	
6 月 19 日	神奈川県大会	横浜文化体育館	内容を変更して実施
8 月 9～12 日	本山合宿	香川県多度津町	
8 月 19～21 日	夏合宿	防衛大学校	
10 月 16 日	開祖生誕 100 周年大会 （全国大会）	横浜アリーナ	中止、但し行事を実施。
11 月	第 45 回全日本学生大会	武道館	
11 月中	第 59 回開校記念祭 （演武披露）	防衛大学校	
12 月初旬	横須賀三浦ブロック大会	県立保健福祉大 （予定）	
時期未定	全自衛隊大会	未定	
時期未定	政権交代	防衛大学校	
1 月中	寒稽古	防衛大学校	
2 月上旬	奥平杯演武大会・納会 OB 総会	防衛大学校	
3 月下旬	春合宿	防衛大学校	

少林寺拳法部第56期政権編成

役 職	氏 名	所 属	要員・専攻
主 将	佐藤 康平	4 2 1	陸上・公共
副 将	北村 修	1 4 1	陸上・機シス
統制長	鈴木 大翔	3 1 2	海上・電気
道場長	岸上 吉孝	1 4 3	航空・航空
主 務	上野 嘉優	1 4 1	海上・機シス
会 計	内木 脩平	4 3 1	陸上・応物
安 全	丹羽 和美	1 3 1	航空・航空
	関川 達弥	3 1 1	陸上・電気
3年係正	鈴木 大翔	3 1 2	海上・電気
3年係副	ドン クォック トアン	3 1 2	陸上・電気
3年係補佐	北村 修	1 4 1	陸上・機シス
3年係補佐	関川 達弥	3 1 1	陸上・電気
2年係正	南里 陽介	1 4 2	航空・航空
2年係副	西田 浩士	1 1 2	陸上・航空
2年係補佐	上野 嘉優	1 4 1	海上・機シス
2年係補佐	内木 脩平	4 3 1	陸上・応物
1年係正	関戸 貫生	3 3 1	陸上・応化
1年係副	岸上 吉孝	1 4 3	航空・航空
1年係補佐	丹羽 和美	1 3 1	航空・航空
1年係補佐	ホックウィッチェットラー	2 2 2	陸上・建設
庶務 (OB・師範)	丹羽 和美	1 3 1	航空・航空
	関川 達弥	3 1 1	陸上・電気
渉外・学連	鈴木 大翔	3 1 2	海上・電気
乱捕り	岸上 吉孝	1 4 3	航空・航空
	ドン クォック トアン	3 1 2	陸上・電気
体力	関川 達弥	3 1 1	陸上・電気
写真	ドン クォック トアン	3 1 2	陸上・電気
ホームページ	南里 陽介	1 4 2	航空・航空

少林寺拳法部顧問団編成

部長 教授 高橋信明

先生 (旧師範) 神田先生 (准範士 7 段) 頼富先生 (准範士 6 段)

監督 2 陸尉 寺田 浩昌 副監督 2 空尉 藤井 貫志

顧問団 教授 宇都宮 俊男 加藤 三千夫 准教授 濱田 秀 (2 陸佐) 有賀 敦 西田 謙

講師 齋藤 文一 助教 和田 篤 事務 伊藤 春代

1 海尉 津森 聡 2 海尉 房野賢一 2 陸尉 坂東正崇 3 陸尉 脇田裕一郎



【平成 23 年度顧問団の面々】

(敬称等略) 前列左から：西川、津森、高橋部長、勝 (22 年度まで)、坂東、房野

後列左から：寺田監督、藤井、西田、和田、加藤、脇田、有賀、渡辺、伊藤、濱田前監督

部外顧問 出口 1 空佐 (#24 空：元主将・全自支部長) 佐藤 1 空佐 (#24 空：元監督)

坂本 1 空佐 (#25 空：元監督)

相良 2 海佐 (#26 海：元監督)

米山 2 陸佐 (#27 陸：元監督)

吉武 2 陸佐 (#31 陸：元主将)

高取 2 海佐 (#37 海：元監督)



【出口先輩：那覇】



【佐藤先輩：府中】



【坂本先輩：十条】



【相良先輩：目黒】



【米山先輩：目黒】



【吉武先輩：横須賀】



【高取先輩：厚木】

※ 部外顧問の方には、防大近隣に来られた時にご指導をいただきます。

奥平会報



※ 2011年2月5日に実施された奥平杯・納会における現役・顧問団と奥平会員の面々

会長挨拶

奥平会会長 石渡 幹生

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

ここで、3月11日に発生しました東日本大震災において犠牲となられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。今次の震災に際し、現役自衛官の奥平会会員の多くも困難な災害派遣活動に懸命にあられたことと拝察し、深く敬意と感謝を申し上げます。

また、母校少林寺拳法部の生みの親であり、OB会の名称にもその姓を使用しております奥平正人氏におかれましては、本年1月19日に永眠（享年88歳）されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

さて、22年度の母校少林寺拳法部の活動そのものにつきましては、例年と大きく変わるころはありませんでした。目標としていた関東学生大会、全日本学生大会での最優秀賞獲得は、残念ながら不本意な結果になり、その目標獲得の夢は佐藤主将をはじめとする56期政権に期待することとなりました。23年度は新体制の下で、肩の力を抜いて頑張りたいと思います。

一方、23年度の奥平会の活動につきましては、総会の承認のもと、例年並みの事業を計画・実施していきますが、本年度の特徴的なことにつきましては次のような状況です。

- ① ここ数年来、年1回の総会を、2月のOB杯争奪戦に併せて、母校の体育館で、学生の応援・実情把握をかねて実施しておりますが、毎年参加者を確保するのに苦労しているのが実情でした。この苦しい叫びを察してか、22年度総会（2月5日（土）開催）では、自主的初参加を含め25名の会員の参加を得て開催することが出来ました。この勢いで次回以降も、寒い時期ですが、学生から元気をもらうつもりで母校にお出かけ願えれば幸いです。なお、OB杯争奪戦の名称を、今回から奥平杯争奪戦として継続することにしました。
- ② 22年度後期の異動で研究科学性が3名増えた（1名卒業、4名入校）ものの、恒常的な事務局の運営、学生支援・安全管理体制などが、未だ憂慮すべき状況にあります。特に、事務局業務を行う職員は実質1名（27期 濱田 秀）でしたが、念願の小隊指導官として51期生の寺田君（陸）が着任されたことは、とりあえず嬉しいニュースです。今後はOBの研究科学生の手も借りて、如何に奥平会業務を効率的・効果的に行うかが課題となります。
- ③ 当初23年度5月に計画されておりました少林寺拳法関東学生大会、6月の県大会、10月の横浜アリーナにおける開祖生誕100周年を兼ねた全日本大会は、今次の震災により、いずれも延期となりました。特に、全日本大会は神奈川県連が担当し、全面的な支援を行うことになっておりましたが、来年度に延期となりました。現段階（23年5月）では全日本学生大会の実施の可否は未定となっております。 以上

会員並びに御家族皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、御挨拶といたします。 結 手

平成22年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

日常における学生に対する指導をおこなうとともに、夏季合宿、関東・全日本学生大会等への支援を実施致しました。**細部は別紙第1「平成22年度奥平会活動成果報告」**のとおりです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OB・OGの方々のご多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。23年度につきましても、できる限り大会等の予定を御連絡いたしますので、応援・ご支援のほどよろしくお願ひします。なお、防大少林寺拳法部創始者奥平正人氏が、1月19日に故郷福岡県豊前市にて逝去されました。88才でした。謹んでご冥福をお祈り致しますとともにここにご報告申し上げます。また、奥平会会則第3条【事業】、第8条【名誉会員】の規定を適用、会長の指導をいただきまして、弔電・供花の処置をさせて頂いております。

2 総会の実施

平成23年2月5日、防大において学生による「奥平杯演武・乱捕り大会」にあわせまして平成22年度奥平会総会を開催しました。総会には規定会員に満つる参集をしていただきました。

総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、今後の奥平会活動等について発議し、熱心に討議が行われました。**細部討議内容につきましては別紙第2**をご参照ください。

3 平成22年度会計報告

別紙第3「平成22年度奥平会決算報告書」をご参照ください。

平成23年度奥平会活動予定

1 平成23年度奥平会活動内容

別紙第4「平成23年度奥平会活動計画」をご参照ください。

2 平成23年度奥平会予算

別紙第5「平成23年度奥平会予算計画」をご参照ください。

3 平成23年度奥平会本部

役 職	期 別	氏 名	連 絡 先
会長	1 7 F	石渡 幹生	(退職)
副会長 (市ヶ谷等)	1 7 A	鈴木 陽	(退職)
副会長 (市ヶ谷等)	2 4 F	佐藤 秀幸	中部航空警戒管制団 副司令 8-43-2251
副会長 兼 総括幹事	5 1 A	寺田 浩昌	防大 112 小隊指導教官 8-40-2611
総括幹事 (副)	2 7 A	濱田 秀	防大防衛学国防論 8-40-3853
庶務・広報	4 9 N	房野 賢一	防大研究科 (情報) 8-40-3773
会計監査委員	2 0 A	半澤 康司	(退職)
会 計	5 2 A	脇田裕一郎	防大研究科 (情報) 8-40-2448

期連絡網について

1 趣 旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理します。
特に近年、退職者が多数おられて、会員の掌握が難しくなりつつある現状を踏まえ、他
校友会会員の扱い等も参考にしつつ、掌握に努めます。

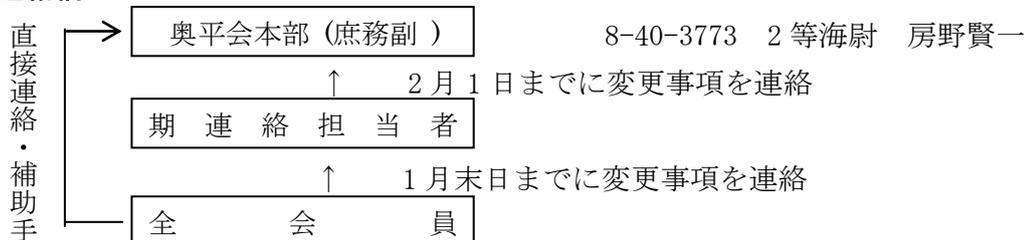
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおきます。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年1月末日までに同期生の連絡担当
者に連絡し、変更事項を告げます（直接防衛大学校庶務に連絡することも可能）。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年2月1日までに奥平会本部（防大
庶務（今年度は副））に連絡する。期担当者の変更（交代・転出）についても防大
庶務（副）に連絡します。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通
じて奥平会本部に連絡するものとします。この際同窓会本部との連携に留意します。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を期毎指名し、申し送るものとします（再任を妨げる
ものではありません）。

4 期連絡網



5 期連絡担当者 (23. 5. 18現在)

10	10	調整中		26F	池 畠 暢也	十条	42A	古賀 信之	市ヶ谷
11	11A	勝野 建朗	退職	27F	堀田 隆治	目黒	43A	廣瀬 繁	目黒
12	12A	衛藤 利治	退職	28A	湯浅 悟郎	伊丹	44A	渡邊 俊明	前川原
13	13A	調整中		29A	甲斐 正人	健軍	45A	八木 新	札幌
14	14A	清水 重周	退職	30A	福田 洋司	旭川	46A	菊池 裕紀	目黒
15	15A	上杉 和壽	退職	31A	吉武 辰明	横須賀	47A	矢野 健一	弘前
16	16A	富本 啓一	退職	32A	福重 毅尚	市ヶ谷	48A	対比地貴之	松本
17	17A	中尾 吉孝	退職	33N	町島 敏幸	出向	49A	西川 尚紀	防大
18	18F	笠原 久	退職	34A	松永 康則	市ヶ谷	50N	鳥居 悠希	大湊
19	19A	屋久 俊郎	退職	35A	戒田 重雄	朝霞	51A	加藤 僚	青森
20	20A	小林 実	退職	36A	藤岡 史生	市ヶ谷	52N	上田 佳裕	下総
21	21A	湖崎 隆	札幌	37N	高取 哲郎	厚木	53A	磯畑 良太	山口
22	22A	松村 利宏	古河	38A	奇藤 浩	仙台	54A	坂口 雄幸	江田島
23	23A	日高 政広	伊丹	39A	中村公多朗	市ヶ谷	55A	尾上 真一	前川原
24	24F	中館 利光	宇都宮	40A	上野 洋介	市ヶ谷			
25	25N	内山 哲也	大湊	41A	後藤 仁志	習志野			

連 絡 事 項

1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気づきの点がございましたら期連絡担当者又は防大奥平会本部庶務まで御連絡ください。

近年、部誌のデータが更新されない等の理由で、送付した部誌が戻ってきまうケースが多く見られます。このため、今年は努めて期担当連絡者と連絡を取るよう努めましたが、連絡がなかった、あるいは連絡がつかなかった期につきましては、昨年度のデータを基に作成しております。

2 期連絡網について

期連絡網について上記のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡下さい。

尚、期連絡担当者様の所属が変更になっている場合、部誌が届いていない恐れがあります。その際は、お手数ですが、同期の方またはお近くの方から期連絡担当者様に本部へご連絡いただけるようお願い申し上げます。今後、最盛期の勢力であった期が逐次退職して行き、連絡がつきにくくなって行くことが考えられます。期連絡網を活用して行くよう努力致しますので、ご協力の方どうかよろしくお願い申し上げます。

3 メール化のご提案

部誌作成業務は、学生と防大勤務者の共同で手作り作業により、営々と行われてまいりました。一方で昨今の IT 技術の発達に鑑み、これを利用するならば、部誌作成業務の省力・節約化、配布の迅速確実化が望めると考えることが出来ます。近い将来一部でもこれを実現化することも重要だと思われます。この提案に関する意見のある方は、奥平会本部庶務(副)板東 2 陸尉 (em49015@nda.ac.jp) までメール連絡下さい。

4 本部連絡先(副会長・総括幹事)

第 1 1 3 小隊指導教官

2 等陸尉 寺田 浩昌

専用線 8-40-2611

局 線 046-841-3810 (内 2611)

5 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務(副)まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績、知りうる範囲で会員様の慶弔等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。

奥平会員の情報提供につきまして（お願い）

※ 明日の少林寺拳法部の基礎を築く・・・OBの方々のご協力について

以下の方は、OB名簿送付先が不明です。事務局と致しましても防衛大学校本部などとも連携して所属等確認中ではありますが、返送されてきた方のお名前も含まれております。気がつかれた方、個人的に交流がございます方は、奥平会事務局副会長（防大）寺田 2 陸尉（046-841-3811 内線 2611、専用線 8-40-2611 寺田のメールアドレス廃止につき、当面濱田 2 陸佐のメールアドレス：hamashu7@nda.ac.jp）、もしくは奥平会本部庶務（副）房野 2 海尉（em50041@nda.ac.jp:046-841-3811 内線 3773、専用線 8-40-3773）にお知らせいただけると、ありがたいです。なお、御退官前に、連絡をさせていただく場合もございますので、どうかよろしくお願い致します。

【不明者（敬称略）】

10 期生：黒野耐、清水蔦男、出田弘一

11 期生：坂本元昭、藤田尚

14 期生：清水直正、齋藤正精

15 期生：安村幸次、三嶋利克、上杉和壽、今村修二、古川照久

16 期生：阿部哲夫

19 期生：園部武典、三星忠正

26 期生：河原敏和、小野長門、瀧澤由則、澤木優輔、平野勝

27 期生：川村治彦、馬場政和、西山利昭、蔵田衛人、沢村徹

28 期生：永井大介、吉田正人、畦地勇、鶴見耕市、神山隆、米田健二、西小路謙、平島一

29 期生：青柳光

31 期生：辰巳竜悟

32 期生：松尾研志、後藤幸英 **33 期生：**半澤新吾、田中勝也、鶴澤直樹、西窪純

34 期生：河田成治 **36 期生：**岩村伝法 **37 期生：**吉田文二 **39 期生：**長濱誠、鳥越涉 **41 期生：**吉村祐樹 **42 期生：**清水辺大、土本邦彦 **43 期生：**梅原航、松口俊

三、関大吾 **44 期生：**八尋幸一 **47 期生：**村重亮、本田一郎 **48 期生：**飯沢直人、廣神敏 **49 期生：**砂川広樹 **51 期生：**稲葉雄一、石川貴之、阿部哲也、島原祐太、

増田陽輔 **53 期生：**棟尾英典

奥平会員名簿

1 奥平会名誉会員名簿

別紙第6「奥平会名誉会員名簿」をご覧ください。

2 奥平会員名簿

別冊「奥平会員名簿」をご覧ください。この際、新たに期連絡網等で連絡・判明した会員の所属変更等は●印で記載しております。

奥平会会則

21年度総会では、昨年に引き続き、総会の参集人員のありかたや、OB顧問が防衛大学校に所在しなくなった場合について等、問題提起がなされました。今後の検討に資する意味で奥平会会則を掲載致しました（別紙第7）。

少林寺拳法全自衛隊支部について

自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の支部として、全自衛隊支部が設立されております。

設立の趣旨としましては、各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものです。

現在、空自の出口潔1等空佐（防大24期主将）が支部長・事務局事務担当者として、相良達也2等海佐（防大26期：元監督）、米山多佳志2等陸佐（防大27期：元監督）が会報担当者として、この業務に携わっております。詳しくは別紙第8をご覧ください。



【平成22年8月10日～13日 本山帰山 56・57期生】

平成 22 年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 各種活動に対し、金銭的支援及び防大所属会員等による人的支援を実施致しました。
- (2) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣会員からの激励・差し入れ（28 期中川会員、50 期代の会員諸官）、金銭的な支援を実施致しました。
- (3) 所要に応じ、OBによる技術指導（佐藤・坂本・米山・吉武・高取各部外顧問）を実施致しました。
- (4) 暫定の処置として、顧問の必要経費の支援を致しました。

2 神奈川県連活動

- (1) 月例の会議に参加（濱田）
- (2) 開祖生誕 100 周年総決起大会（10 月 17 日）への参加（濱田・高取・藤井・坂東）

3 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（月 1 回；永田）
- (2) ブロック合同練習参加（濱田・坂東・藤井・寺田）
- (3) ブロック大会引率（12 月 5 日）諸準備（12 月 4 日）の実施（寺田）
- (4) 新年会（2 月 7 日；濱田）、三崎先生を偲ぶ会（5 月 2 日；濱田）、忘年会（12 月 6 日）等行事への参加

4 学連・自衛隊連盟等行事への参加

- (1) OB連合会（5 月 29 日・11 月 23 日）への参加（藤井）
- (2) 慶応義塾大学 50 周年（6 月 12 日）への参加（米山）
- (3) 東京農業大学 50 周年（6 月 26 日）への参加（藤井）
- (4) 明治大学 50 周年（12 月 4 日）への参加（会長）
- (5) 第 37 回全自衛隊大会（12 月 18 日）への参加（米山・濱田）

5 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議の開催（随時・転出入者があったとき）
 - (2) 政権・OB 合同会議（1 ヶ月に 1 回、必ず実施）
 - (3) 職員少林寺拳法講習会の実施（週に 1 回；齋藤・和田顧問、現在 2 級）
 - (4) ホームページの作成及び運営指導（行事等の機微に応じた広報活動を指導）
- ※ なお、会としてではありませんが、十条支部から 20,000 円、佐藤先輩から、10,000 円の金銭的支援をいただいております、学生により有効に使用させて頂いております。

平成 2 2 年度奥平会総会議事録

※ この議事録は平成 23 年 2 月 5 日時点のものであり、転勤等により 23 年度の役職・行事等に若干の変更がございます。

1 学生に対する指導の着眼点

- (1) 関東学生OB連合会及び少林寺拳法連盟横須賀・三浦ブロック主催の合同練習等への積極的参加（近隣支部との交流）
- (2) 大会等を通じて交流が深まった大学との合同練習の積極的実施（関東学連への参加）

2 平成 2 2 年度奥平会活動報告

資料（別紙第 1）のとおり報告し、質問等の特記事項なし。

3 平成 2 2 年度奥平会会計報告

資料（別紙第 3）のとおり報告し、質問等の特記事項なし。

4 平成 2 3 年度奥平会活動計画

報告（別紙第 4）のとおり承認された。

また、県大会、開祖生誕 100 周年記念大会の参加に参加する場合、学生に各大会 1 万円の支援を行うこととなった。なお、一般財団割当経費 35,000 円も奥平会から負担することとなった。

5 平成 2 3 年度予算計画

報告（別紙第 5）のとおり承認された。

6 今後の運営について

恒常業務の他、奥平会・防大勤務者に関する事項に関し活発に議論が交わされた。決定事項及び自由意見に関しては以下の通り。

(1) 監督、顧問業務

濱田会員が実施し、学生の技術指導等は近隣（OB、三浦ブロック等）からの支援をもらう。

特に将来的に防大に所在するOB顧問が増加する見込みも少ないことから、部外顧問制度を充実（学生時代の主将・副将等の優技者、任官後も練習を継続している者、全自支部の役員、元監督等）して、学生の指導を充実する。さらに、OB顧問以外の意欲のある教官を将来的に有段者に育てる等工夫して、顧問団の育成に留意する。

(2) 幹事業務（以下の記述は2月5日当時の決定事項。23年度の顧問人員の増加により若干の変更事項有り）

ア 総括業務

正：濱田（#27）会員

副：寺田（#51）会員

イ 庶務業務

- ・三浦ブロッカー藤井(#50)会員
- ・神奈川県連 ー濱田(#27)、高取(#37)会員
- ・全自衛隊 ー米山(#27)会員
- ・学生OB連盟ー米山(#27)会員

ウ 会計業務

藤井（#50）会員

エ 広報業務

坂東（#51）会員

(3) 会計監査

半澤（#20）会員

7 その他

(1) 部旗の作成について

部旗については、22年度は結局作成完了できなかった。23年度完成を努力目標とする。（部旗用の代金13万円は学生が保管している。部旗内に「贈 菅野先生並びに奥平会一同」と記載する。）

また、学生主体に作成させるが、もし時間がかかりそうな場合は、部旗用の代金を奥平会で管理する。

(2) 状況分析（奥平会を取り巻く組織資源について（「人・物・金」）

現在奥平会員の最初の退職（10期生）が開始されてから約10年、今年度は22期（1佐）が該当期となっています。

20期代は奥平会会員数のピークを迎えた期であり、10年以内OB数は減少の一途をたどることとなります。一方で、50期代は10名規模に回復したとはいえ、40期代は4名で政権を担った期もあり、減少の度はさらに増すことが予想されます。このような状況を鑑み、これからの奥平会総会は、組織資源である「ヒト・モノ・カネ」に関して引き続き検討を続けていかなければなりません。

以上のような全般状況の中であるので、平成23年度は40、50期代の小隊指導官、中隊指導官要員が補充の対象となっているが、OB顧問の増加はあまり期待でき

そうにありません。つまり、本年度のような4～5人のOB顧問で防大地区は奥平会事務、及び部外との調整、学生の掌握等に努めなければならない状況にあります。

現在、部員が10～15名の人員を確保できる兆しがあることから、「ヒト・モノ・カネ」のうち、奥平会予算については平成18年度から小康状態に入りました。今後も現役学生と協力して新入部員勧誘に努めなければなりません。

(3) OB顧問の出費について

昨年に引き続き実施することとなりました。

(4) OB顧問の選定・調整について

OB顧問の推薦を含め、総会では現実的な話をしなければならない「時代」に入ったのではないかと。また、現在庶務が陸（濱田）なので、海・空の人材情報に疎い部分がある。適任教官の推薦など、それぞれの立場で協力が必要であることから適任の人材がいれば、事務局（濱田 2 陸佐：専用線 8-40-3853 もしくは E-mail : hamashu7@nda.ac.jp）に情報提供をお願い致します。

(5) 自衛隊全自支部について（紹介）

卒業後に少林寺を継続する手段として説明し各人の精進、修養の一助とする。



【平成22年12月18日に実施された自衛隊大会での1コマ；頼富先生・54期OBの諸官と】

平成22年度奥平会決算報告書（平成22年1月1日～同年12月31日）
 平成22年度奥平会決算報告書（平成22年1月1日～同年12月31日）

1. 収支報告

収入	
前年度繰越金	2,323,349
小計	2,323,349
54期OB会費	486,000
利息	0
その他(防具代)	100,000
小計	586,000
総計	2,909,349

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
全自衛隊大会	30,000
全日本学生大会	60,000
小計	140,000
学生支援金	
春合宿支援金	5,000
夏合宿支援金	10,000
新入生獲得支援金	60,000
小計	75,000
技術向上支援金(師範代)	200,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	30,000
三浦ブロック関連	36,000
部誌発行関連	184,970
OB杯・慶事・雑費等	65,887
顧問支出経費援助(OB連合・記念行事)	81,700
小計	398,557
総計	813,557

年度内差引額 ￥-227,557 円

2. 残高報告

¥2,095,792 円

上記内容に異状ありません。
 平成22年度奥平会会計係

濱田 秀

3. 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

半澤 康司

平成23年度奥平会活動計画

1 活動内容

- (1) 部活動支援
金銭的・人的支援を継続して実施するとともに、少林寺拳法改革新体制移行に伴う指導を適切にする（各人毎の本山との連絡・入金、休眠・考試との関連）。
- (2) 一般財団の実施する講習（監督資格講習）に、努めて参加する。
- (3) 横須賀・三浦ブロック活動への参加
近隣支部との合同練習（2ヶ月に1回；防大は企画係）に積極的に参加（本山の目）する。
- (4) 関東学生OB連合会活動参加
懇親会を通じて交流のできた大学との合同練習機会を拡大する。
- (5) 校内活動
OBの部活動・練習参加に加え、OB自身の技術向上を図り、積極的に指導を実施する。
- (6) 県大会（6月19日）、開祖生誕100周年記念大会（10月16日）の参加に対し金銭的支援をする。また、一般財団割当経費（一律35,000円、拳士3,000円/1人）については、財団分を負担する。

2 部の活動予定

「平成23年度年間活動計画」参照

3 活動に当たっての重点事項

- (1) 新入部員獲得に関して指導をするとともに、金銭支援を行う。（金銭支援、勧誘活動支援、HP作成等）
- (2) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。
特に将来的に防大に所在するOB顧問が増加する見込みも少ないことから、部外顧問制度を充実（学生時代の主将・副将等の優技者、任官後も練習を継続している者、全自支部の役員、元監督等、平成22年度には7名に依頼）して、学生の指導を有益なものにする。さらに、OB顧問以外の意欲のある教官を将来的に有段者に育てる等、顧問団の育成に着意する。
- (3) 防大勤務OBの増加を要望する（陸・海・空各幕への働きかけ：22年度：寺田2尉）。
- (4) 期連絡網については、メールの活用を含め、連絡体制の効率化・迅速化を図る。

4 部務の運営について

(1) 監督、顧問業務

現在研究科学生（永田・藤井・板東）を除き、職員は加藤先輩（#15）、濱田（#27）、寺田（#51）の3人である。当面濱田会員が監督を実施するが、適任者があれば適宜交代を予定する。

学生の技術指導等は佐藤1佐（#24）、坂本1佐（#25）、相良2佐（#26）、米山2佐（#27）、吉武2佐（#31）、高取2佐（#37）の部外顧問をはじめ、近隣からの支援をもらう。

(2) 幹事業務

ア 総括業務

濱田会員（副：寺田会員）

イ 庶務業務

- ・三浦ブロックー津森会員
- ・神奈川県連ー濱田・高取会員
- ・全自衛隊ー米山会員
- ・学生OB連合ー米山会員

ウ 会計業務

脇田会員

エ 広報業務

房野会員

(3) 会計監査

半澤会員（20期：埼玉県在住）

5 その他

(1) 開祖生誕100周年全国大会への参加について

ア 実施日時：10月16日（日）

イ 実施場所：横浜アリーナ

ウ 経費に関する事項：一般財団構成員としての支出、個人拳士としての支出

エ 参加要領

(2) 一般財団移行に伴う少林寺拳法の改革について：

(3) 防大少林寺拳法部創立50周年行事について (たたき台)

ア 時期：平成26年度 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

先回は平成16年12月に実施された。

イ 場所：GH市ヶ谷 (案；経費上の問題から40周年を踏襲するのが得策か?)

ウ OB主体行事とするのか、少林寺拳法部としての行事とするのか：OB行事 (案)

エ 参集範囲 (総裁・学校長・一般財団・ブロック・全自・他大学)

オ 準備組織の在り方

準備 (学校側・OB関連・一般財団関連・自衛隊関連の取り纏め)

カ 記念品等

40周年ベース? (CD)

※ 少なくとも平成25年度には動き始める必要があるようである。

(4) 顧問への支出 (平成22年度試行) について

23年度も施行に移したい (学校OB顧問としての要望)。但し平成10～18年度のような状況になった場合再検討するとしてはどうか。

試行年度の支出状況

2月7日	三浦ブロック新春の集い	¥5,000
5月2日	三崎先生を偲ぶ会	¥5,000
5月8日	新入生歓迎会支援	¥4,700
5月29日	OB連合懇親会	¥8,000
6月12日	慶應大学50周年	¥10,000
6月26日	東京農大50周年	¥10,000
10月17日	開祖生誕100周年総決起集会	¥24,000
11月23日	OB連合懇親会	¥5,000
12月4日	明治大学50周年	¥10,000

総計 81,700 円

23年度案：22年度と同様、100,000円をOB顧問団必要経費として計上

(5) 部旗の製作

部旗については、学生が作成することを基本とする。(部旗用の代金13万円は学生が保管している。「贈 菅野先生並びに奥平会一同」と記載させる。)

状況により、顧問側で作成する。

平成23年度奥平会予算計画

1 収入について

40期半ばの部員減少期、厳しいOB会費予算の状況を受けて12年度以来、一口30000円の特別会費を設定、お願いにこたえ、OB・OGの皆様の温かいご援助を受けてまいりました。これにより18年度には約2ヵ年分の活動費（約140万円）を上回る額を確保することができるようになり、当該年度をもって、特別会費の徴収を見合わせた予算となったことは33号（平成18年度版）でも申し述べたとおりです。

当面の間、23年度以降も卒業時の一時金による予算によりまかなうことになっております。因みに現在の部員数は、3学年13名、2学年13名、1学年16名となっております。23年度以降も終身OB会費による運営が可能で、今後も奥平会の本来の形式であった終身OB会費（卒業時の学生手当の1/2）による運営を追求して行きます。

2 支出について

23年度も、大きな事業は予定されていません。会誌印刷の外注化継続経費を含め、恒常的な支出は今年度並となります。

3 23年度予算計画について

収 入		支 出	
前年度繰越金	¥2,323,349	各種大会支援	¥160,000
小計	¥2,323,349	合宿支援	¥15,000
54期OB会費	¥486,000	学生活動支援	¥60,000
55期OB会費	¥702,000	技術向上支援	¥200,000
利息	¥0	奥平会運営費	¥250,000
その他（防具代）	¥100,000	OB顧問団必要経費	¥100,000
小計	¥1,288,000		
総計	¥3,611,349	総計	¥785,000
残高（収入－支出）			¥2,826,349

4 来年度以降の見通し

奥平会の運営経費は年間約70万円を必要としております。既にご承知の通り、収入は当該年度の卒業生の終身OB会費（5.4万円/人）によって賄われております。当面は終身OB会費による運営が可能です。

なお、菅野部長からいただきましたご厚志（部旗代）につきましては、部旗の制作費に充てますが前述のように作成要領が本山から示され次第、使用させていただく予定であり、進行状況については総会において毎年ご報告させていただきます。

奥平会名誉会員名簿

(23.3.1現在)

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	高橋信明	通信工学科 教授	〒236-0045 横浜市金沢区釜利谷南 3-16-16 TEL 045-784-2339
先生	神田憲和	三多摩副道院長 准範士7段	〒164-0003 中野区東中野 2-14-7 TEL 03-3363-6275
先生	頼富英武	少工校顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林 5-6-11 TEL 0468-56-7663
元部長	菅野等		〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東 6丁目 34番 1-411 TEL 045-786-5877



【平成22年度奥平会総会(23.02.05 於：防大作戦講堂)】

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会則

(名称組織)

第1条 本会は、防衛大学校少林寺拳法部奥平会（以下「奥平会」という。）と称し、防衛大学校少林寺拳法部（以下「少林寺拳法部」という。）に卒業時所属していた者及び一時所属していた卒業生で入会を希望する者をもって組織する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の親睦を図ること、少林寺拳法部の発展向上に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員相互の融和団結の促進
 - ア 総会の開催
 - イ 部隊等における支部の設立と活動に対する支援
 - ウ 会員の慶弔に関すること
 - (ア) 結婚 …… 祝電
 - (イ) 死亡 …… 花輪、弔電
- (3) 会員の修業の便を図ること
- (4) 少林寺拳法部への支援
 - ア 合宿
 - イ 関東、全日本、その他の大会
 - ウ OB杯大会
- (5) 学生OB連合会及び他大学OB会との連携・交流
- (6) その他、本会の目的を達成するため会長が必要と認める事項

(経費)

第4条 本会の経費は、会員より徴収する会費及び寄付等の支援金によるものとする。

(会費)

第5条 20期以前の会員は一律5000円、21期以降の会員は卒業時における学生手当の2分の1（1000円未満切捨て）を終身会費として納入するものとする。なお、一旦納入した会費は返還しない。

(特別会費)

第6条 前条に定めるほか、特別の出費を要するときには、総会の承認を得て会員から特別会費を徴収する。

(本部)

第7条 本会の本部は、防衛大学校（少林寺拳法部）内に置く。

(名誉会員)

第8条 会長は、次に掲げる者を総会に諮り名誉会員にすることができる。

- (1) 防衛大学校長
- (2) 少林寺拳法部の部長、師範、顧問及びその経験者
- (3) その他、少林寺拳法部の発展に功績のあった者

(役員)

第9条 本会の役員は、会員のうちから選出する。役員任期は1年とし、再任を妨げない。

2 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 幹事 本校在職会員
- (4) 会計監査委員 1名

(会長)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総理するとともに、名誉会員との連絡調整にあたる。

2 会長は、会員の中から副会長、幹事、会計監査委員を任命する。

3 会長は、5年任期とし、次期会長の任期に当たった当該自衛官会員の先任者等の推薦によって選考するものとし、当該期会長任期満了までに総会の承認を得るものとする。

4 会長は、陸海空自衛官会員の持ち回りを原則とするが、当該要員に適当な候補者がいない場合は他の要員から選考する。但し、同じ要員から連続して選考しないものとする。

(副会長)

第11条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき之を代行する。

2 会長は、防大及び市ヶ谷駐屯地等の会員の中で、それぞれ適任と思われる者から副会長を任命する。また、必要によりこれを免ずることができる。

3 状況により、会長は副会長を置かないことができる。

(幹事)

第12条 幹事は、会長、副会長を補佐し、会務を処理する。

2 会長は、防大に勤務する会員を総員幹事に任命する。

(会計監査委員)

第13条 会計監査委員は、年度末及び臨時に会の会計を監査し、会長及び会員に報告する。

2 会計監査委員は、防大の幹事以外の会員の中から会長が任命する。

(運営)

第14条 本会は、総会の決議に基づいて運営する。但し、急を要する事項、若しくは軽易な事項は、会長が役員会に諮って決することができる。

(総会)

第15条 総会は、原則として年1回会長が召集する。但し、必要と認めるときは、臨時に召集することができる。

2 会長は、総会の召集にあたり、副会長に委任することができる。

3 総会は、会員15名をもって成立する。但し(5名)をこえない範囲で委任状による手続きによることを妨げない(平成20年度総会議決事項)。

4 総会の議長は、会長がこれに充たるものとする。

5 総会の議事は、出席した会員のうち過半数以上の賛同により、成立するものとする。

(会務)

第16条 本会の会務を円満に処理するため、会長は幹事の中から書記4名を選任する。

2 書記は、総括、庶務、会計及び広報に分掌して処理する。

3 総括担当書記は、会務運営を企画し、会務全般を総括する。

(1) 会長等と密接に連絡を取り、会長の意向を会務全般に反映する。

(2) 年度の活動成果報告を作成して、総会に報告する。

(3) 次年度の活動計画を作成して、総会の承認を得る。

(4) 庶務、会計及び広報担当書記の会務を統制・調整し、会務の円滑な運営を図る。

(5) 状況により、他の担当書記の会務を兼務することができる。

4 庶務担当書記は、主に庶務事項に関して会務を分掌する。

(1) 学生OB連合会、他大学OB会等のOB会組織並びに(財)少林寺拳法連盟、神奈川県少林寺拳法連盟、全自衛隊少林寺拳法連盟等の連盟組織との連携を図るとともに、必要な処置を行う。

(2) 役員名簿を作成する。

5 会計担当書記は、会費を管理し、主に会計事項に関して会務を分掌する。

(1) 会費を徴収する。

(2) 会費納入名簿を作成する。

(3) 会費未納者に対し、会費の納入を促す。

(4) 毎会計年度終了後、特別会費を徴収した場合はその都度、決算報告を作成し総会の承認を得る。

6 広報担当書記は、主に広報事項に関して会務を分掌する。

(1) 少林寺拳法部と連携して、試合日程、合宿等を会員に知らせ、会員の応援を促す等、会員に対する適宜の情報提供を図る。

(2) 少林寺拳法部と連携して、年1回会報を作成し、各担当書記が作成する会の活動計

画・成果、決算報告、総会議事録、名簿及び部の状況等を会員に知らせる。

(3) 会員名簿を作成する。

(会計)

第17条 本会の会計年度は、1月1日に始まり12月末日をもって終わる。

2 本会所管の会費は、確実なる金融機関（防衛庁共済組合を含む）へ預け入れるものとする。

(会費の使途)

第18条 本会の会費は、次のことにより使途するものとする。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員の慶弔に関すること
- (3) 少林寺拳法部への支援
- (4) 会員等によるOB会活動等への参加支援
- (5) 会員の大会出場（全国大会レベル）への参加支援
- (6) 会長が、副会長及び幹事等の役員に諮り、奥平会、少林寺拳法部の円滑なる運営上必要と認めた事項

(期連絡網)

第19条 本会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理するため、各期に1名の期連絡担当者を置き、会員及び本部との間に期連絡網を整備する。

2 期連絡担当者の選出は、各期毎確実に連絡の取れる会員（電子メールアドレス所持者等）を選出するものとし、交代の際には速やかに本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

3 会員は、住所・所属等に変更があった場合、毎年11月1日までに同期生の期連絡担当者を通じて、変更事項を本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

4 その他、会員の慶弔に関する事項については、期連絡担当者或いは各会員が直接本部（広報担当書記）に連絡するものとする。

(退会)

第20条 会員で退会しようとする者は、会長に申し出るものとする。

(規則の改正)

第21条 本会の規則は、総会によって変更することができる。

2 前項の場合、出席会員の3分の2以上の賛同を得なければならない。

附則：この会則は、平成21年2月14日から施行する。

全自衛隊支部の活動紹介

全自支部事務局

【紹介の趣旨】

奥平会の会員におかれましては、防大卒業時に少林寺拳法の修行を止めてしまった方、勤務の都合で練習したくてもやめざるを得なかった方、勤務地の中で全自衛隊連盟支部として活動している方、一般の道院・支部に通って活動している方等、いろいろおられると思います。中には活動をしたくても、転属をする度に手続きの煩雑さから、活動を躊躇している方もおられると思います。

そのような状況の中で、自衛隊員の活動を容易にし、自衛隊の中での少林寺拳法の活動を活発化する目的で、全自衛隊連盟の一支部として、全自衛隊支部が設立されたところです。

下記の内容を読んでいただければ、その活動状況はご理解いただけると思いますが、比較的軽易に少林寺拳法の活動が可能になりましたので、奥平会会員の皆様も是非又道着の袖に腕を通していただきたく、この場を借りて紹介させていただきます。

1 設立の趣旨

各拳士が全国どこの自衛隊勤務地においても少林寺拳法の練習ができるように設立されたものであり、もって自衛隊の少林寺拳法の活発化を図るものである。全自衛隊支部に所属する場合の具体的な例として、

- (1) 部長が転勤及び退職等により、やむなく廃止や休止せざるを得なくなった少林寺拳法部員の活動継続する場合
- (2) 拳士が転勤等により、少林寺拳法部がない勤務地に異動して活動継続する場合
- (3) 拳士が頻繁な転勤等により、その都度、各少林寺拳法部への転籍ができない場合
- (4) その他、拳士の活動継続が困難な場合

2 活動の状況

- (1) 支部長兼事務局長 : 出口 潔 (防大24期: 主将・1等空佐)
- (2) 事務局 : 相良 達也 (防大26期: 元監督・1等海佐)
: 米山多佳志 (防大27期: 元監督・2等陸佐)
- (3) 支部員: 支部長以下32名(22. 1. 1現在)
(防大少林寺拳法部出身者: 10名)
- (4) 所在地: 沖縄南西航空混成団(原則として事務担当者の所属場所)

- (5) 支部員の活動場所：20カ所
- (6) 会費 当面、年会費10,000円を徴収
(入部、転籍の際、別途、身分証明書代500円、袖章代500円が必要)

3 入部及び活動要領

(1) 入 部

ア 入部資格

全国の自衛隊拳士を対象とするが、原則として、

(ア) 少林寺拳法部を有しない自衛隊駐屯地等において勤務する拳士及びその家族とする。(当面の間、有段者のみ)

(イ) 所属道院支部道場を有しない自衛隊OB拳士も対象とする。

イ 入部要領

入部を希望する者は、会費(1万円)及び転籍諸経費(1000円)を添えて入部届又は転籍届(写真2枚含む)を事務局(出口宛)に提出し、入部の承認を得る。

(2) 修練場所

原則として、各駐屯地等の施設を活用した修練とする。但し、駐屯地等の近隣に位置する道院支部での修練は、道院支部等の所属長に当部の活動趣旨について理解を求め、参加許可を受けて行う。

(3) 支部の事務処理(事務局)

空自・出口潔を支部長兼ねて事務局長(事務担当)とし、事務局を空自南西航空混成団幕僚長室に設置する。(21.12.7以降、現在まで)

原則として、事務局の所在場所は出口拳士の所属する勤務基地等とし、転属等により、その都度、所在場所を変更する可能性がある。

(4) 定期連絡

各部員は各自の活動状況について支部長(事務局気付)に定期報告する。また事務局は毎月の参座報告等を通じて、定期的に部員の活動場所を連盟本部に報告する。

また部員の転勤等によって活動場所が変更になった場合は、速やかに事務局に報告する。各拳士からの連絡手段:電話、メール又はFAX等で実施。

(5) 部 費

ア 部員の部費は、年間10,000円（暫定・年間個人登録費を含む）とする。

イ 部費は毎年2月末までに徴収する。

（参考:17.4.1現在における必要経費）

年間個人会費	5,000円/人
支部団体登録費	5,000円/部
全自衛隊連盟会費	20,000円/部
全自衛隊大会参加費	10,000円/部
転籍時の身分証明書・袖章代	1,000円/人

(6) 会報少林寺拳法の配布

原則として連盟本部から事務局に一括送付し、可能な限り、年間数回に分けて部員に配布する。

(7) その他

当面の間、部員については有段者のみとする。新入門者及び級拳士は、昇級審査等の関連より、既存の全自連盟の少林寺拳法部所属としてもらいたい。

4 入部及び問い合わせ先

〒901-0194

沖縄県那覇市字当間301

航空自衛隊南西航空混成団司令部 幕僚長 1等空佐 出口 潔

TEL : 098-857-1191 (内2202)

専用線 : 8-98-2202

Email : k-deguchi@topaz.plala.or.jp (自宅)



【 平成 23 年 5 月 14 日 新入生歓迎会 於ソレイユの丘 】

奥平会員名簿

(平成 23 年 3 月 1 日現在)

凡例：●印については期担当連絡員のご連絡等により判明した異動者



【 平成 23 年 6 月 4 日に実施された‘伝統の’早慶防合同練習 於総合体育館 】

※ 参加校 8 校 約 100 余名が参加しました。

編集後記

56期 庶務係 関川 達弥

合掌

立夏の候、ますますご清栄のことと存じ上げ上げます。55期生が卒業し、58期生はカッター訓練をおえ、59期生15名を迎えた新体制で、気持ち新たに、部員一同日々修練している次第であります。

昨年度の成績といたしましては、関東学生大会、全日本学生大会で団体演武3位という成績で満足のいく結果は得られませんでした。現在、関東学生大会、全日本学生大会最優秀賞を目指して部員一人一人が気持ちを切り替え、目標意識を高く持ち、一日一日の練習に全力で取り組んでおります。特に団体演武においては一昨年の全日本学生大会から最優秀を逃している現状ですので、先輩方の築かれた輝かしい「防衛大学校団体演武」の名に傷をつけぬよう政権、57期一丸となって最優秀を獲りにいき新たに伝統を作っていく所存であります。

私ども56期も下級生と共に日々自己研鑽に励み、政権を中心として全部員が「一枚岩」となって修練に励んでいきますので、先輩の皆様におかれましても、ますますのご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回部誌を作成するに当り、ご協力・ご指導をいただきました部長、監督をはじめとする関係者の方々に厚くお礼を申し上げまして、編集後記とさせていただきます。

結手



